

目 次

◆ 系別一般学術発表演題数およびハイライト掲載数一覧.....	1
◆ シンポジウム キャッチフレーズ一覧.....	2
◆ 一般学術発表 キャッチフレーズ一覧.....	9
化学系薬学	9
物理系薬学	10
生物系薬学	11
環境・衛生系薬学	12
医療系薬学	12
その他薬学	14
◆ 一般学術発表 ハイライト要旨.....	15

日本薬学会第 140 年会の講演ハイライトの公開に寄せて

日本薬学会第 140 年会は、2020 年 3 月 25 日（水）から 28 日（土）にかけて、国立京都国際会館を中心にして開催する予定でした。しかし、ご存知のように、年会の開催中止という残念な結果になってしまいました。参加を予定されていた皆様に対しましては誠に申し訳なく思いますとともに、2 年ほど前から準備を進めてきました組織委員会といたしましても落胆の色を隠すことができません。

第 140 年会では、会頭講演や各種受賞講演に加えて、ノーベル化学賞受賞者やラスカー基礎医学研究賞受賞者を含む特別講演 10 件（海外 6、国内 4）、会頭特別企画講演 1 件、国際交流シンポジウム 2 件、理事会企画シンポジウム 1 件などを企画していました。そして、公募によって採択された 52 件の一般シンポジウムが予定されていました。第 140 年会からの試みとして、組織委員会でシンポジウムの採否を決定する際の参考にするために、部会に対して推薦を依頼しました。さらに、第 140 年会からの企画として、日本薬学会の国際化を推進するために、海外シンポジストの旅費を組織委員会で負担することにして応募を募り、9 件の英語で行うシンポジウムを採択していました。このように様々な企画の成否を見極めたかったのですが、残念ながらそれは叶いませんでした。

一般口頭発表は約 1,000 題、ポスター発表は約 2,600 題で、合わせた数は例年よりも 100 題ほど多い予定でした。さらに、予約参加申込者は 6,100 名を超え、例年よりも 1,000 名ほど多い予定でした。このように、参加を予定されていた皆様のご期待をひしひしと感じていましたので、年会の開催中止は本当に苦渋の決断でした。

さて、例年の日本薬学会年会では、報道機関向け講演ハイライトを作成して公開し、記者会見を行ってきました。しかし、第 140 年会では、冊子体としての講演ハイライトの発行を取りやめ、記者会見も中止いたしました。ただし、プログラム集の発行と Web 要旨の公開をもって本年会は成立し、本年会での発表も成立していますので、多数の発表者の皆様にすでにご作成いただいている一般学術発表のハイライト要旨の取扱いについて、年会組織委員会と日本薬学会広報委員会との間で協議いたしました。その結果、ハイライト要旨を Web 公開することにいたしました。発表者の皆様には、難しい専門用語を使わずに、非専門家でもわかるように、キャッチフレーズや要旨をご作成いただいています。年会組織委員会、そして日本薬学会といたしましては、ハイライト要旨の公開をもちまして、少しでも多くの皆様に日本薬学会の活動や魅力について知っていただき、引き続きご協力やご支援をいただければと思います。

ご 挨 拶

2020 年 3 月 25 日から京都にて開催予定であった日本薬学会第 140 年会は、残念ながら開催を中止することとなりました。年会で発表・議論される内容を分かりやすく社会に周知することは、日本薬学会広報委員会の重要な活動の一つであり、記者会見の開催や講演ハイライトの編集と出版などを通じて年会をバックアップすべく、これまで作業を進めてきました。我々を含め準備をしていた方々や、参加を予定していた方々は落胆されていることでしょう。ただ組織委員会としても議論を重ねたうえでの、苦渋の決断であったことをご理解いただければと思います。

140 年会としては、プログラム集の発行と Web 要旨の公開をもって成立し、本年会での発表自体も成立となります。ハイライト集に関しては中山組織委員長を中心に話し合った結果、web 上でハイライト要旨を公開することになりました。組織委員会がセレクトした興味深い発表や、最近注目を集めるテーマを中心にオーガナイザーが構成したシンポジウムに関して、極力専門用語を使用することなくその中身と魅力を伝えるべく、広報委員会のメンバーも頭をひねってキャッチフレーズや概説文作成をサポートしたものです。例えば報道関係の方がご覧になり興味を引く項目がありましたら、前述のプログラム集や Web 要旨にさかのぼることで情報を得て、発表者や関係者にコンタクトし内容を確認するなど、ご活用いただければ幸いです。

現在様々なイベントが延期や中止となり、先の見通せない状況ではあります。そんな中、日本薬学会は、少しでも社会に貢献できるよう日々活動を重ねています。その一端を本ハイライト要旨で知っていただくと共に、引き続きご理解とご支援をいただければと思います。

公益社団法人日本薬学会 広報委員長 佐藤康夫

系別一般学術発表演題数およびハイライト掲載数一覧

系	分 類	演題数	掲載数
化学系	有機化学	516	5
	生薬学・天然物化学	328	3
	医薬化学	175	2
物理系	物理化学・生物物理	148	2
	分析化学	144	2
	放射化学	47	1
生物系	生物化学	407	4
	薬理学	367	3
	微生物学	107	2
環境・衛生系	衛生化学・公衆衛生学	173	2
	環境科学	60	1
	社会と薬学	13	1
医療系	薬剤学	140	2
	製剤学	162	2
	医療薬学	416	4
	社会薬学	109	2
	医療薬科学	114	2
その他	薬学教育	109	2
	薬学史とその他	38	1
	計	3,573	43

(2019 年 12 月 8 日現在)